第21回”魂の俳人“藤枝市村越化石俳句大会

入賞作品集

藤枝市

藤枝市村越化石俳句大会について

平成十四年、藤枝市岡部町出身の村越化石氏の功績を顕彰して、藤枝市岡部町新舟に句碑を建立すると同時に創設されたものです。

大会の主旨は、村越化石氏の俳句の世界の理解、俳句に人生の豊かさを見出している方々に作品発表の機会を作ること、そして初心者をはじめ小中学生の皆さんが俳句に親しみ、楽しんでいただくことを目指しております。

”魂の俳人“村越化石

村越化石氏は大正十一年藤枝市岡部町に生まれ、ハンセン病を発症し、十六歳のとき治療のため離郷。

その後、俳人大野林火氏に師事し、精進に精進を重ねて数々の立派な作品を生みだし、「魂の俳人」として数多くの賞を受賞しています。

昭和五十八年
　第十七回蛇笏賞 受賞

平成三年
　紫綬褒章受章

平成二十六年三月八日
　死去（九十一歳）

選者紹介

高柳克弘（たかやなぎかつひろ）氏

一九八〇年、静岡県浜松市生まれ。俳句結社「鷹」編集長。第十九回俳句研究賞、第二二回俳人協会評論新人賞、第一回田中裕明賞、第四六回俳人協会新人賞、第七一回小学館児童出版文化賞。二〇一七年度、二〇二二年度Eテレ「NHK俳句」選者。近著に『隠された芭蕉』（慶応義塾大学出版会）。

村越化石賞

小学生の部

あさがおのねじれたつぼみひろがった

市川　登理
青島小学校・1年

〔講評〕

「咲く」という言葉をつかわず、自分なりの言葉で、アサガオの開花を表現したところがすばらしいです。この句を読んだとき、心がふわっと軽く、明るくなりました。自然のいとなみをこんなにも感動的に書ける作者を、そんけいします。

中学生の部

夏の雨銀に光りて天から地

荒田　まりあ
青島北中学校・1年

〔講評〕

晴れていたと思ったのに、いきなり降ってくる夏のにわか雨を詠んだ句でしょう。「夏の雨銀に光りて」までは美しい描写です。ただ、それで終わっていないのは、この作者の才気というべきでしょう。「天から地」で、美しさに、ゆうだいさも加わりました。

市長賞

小学生の部

なつやすみからくりやしきかべうごく

大塚　蓮
西益津小学校・1年

〔講評〕

夏休み、作者は忍者やしきに行ったのでしょう。「かべうごく」は、ふつうの家では体験できないこと。いったいどこに通じているのか、ワクワクする気持ちが伝わってきます。夏休みの思い出を、具体的に詠んだのが良かったです。

中学生の部

涼風が行方不明の部活中

小長谷　郁生
青島北中学校・1年

〔講評〕

文化部、運動部、どちらでも成り立つ句です。真夏の部活動、涼しい風がほしいところだけど、一向に吹く気配はありません。そんな気分を「涼風が行方不明」とユーモアたっぷりに表現しました。おどけでもしないと、やっていられないほどの暑さなのでしょう。

教育長賞

小学生の部

ふじとざんくもをたべてもあじしない

服部　陽
葉梨小学校・4年

〔講評〕

「雲を食べる」という発想がすてきですね。富士山をのぼっていくと、雲よりも高いところに出ますから、こうした表現にも納得です。「あじしない」と、まじめに感想を言っているところ、くすりと笑えます。

中学生の部

夕涼み素足に触れる風の道

ザリファ　サラ
青島北中学校・3年

〔講評〕

えんがわから、ぶらりと足を垂らしているところが思い浮かびます。その足が、風の道に触れた、という表現が詩的です。はるかからやってくる風の流れを感じているのです。読むだけで涼しくなれる句ですね。

藤枝市文化協会会長賞

小学生の部

風鈴が山に響くよ白川郷

小野　楓
青島小学校・6年

〔講評〕
岐阜県にある「白川郷」。五箇山と合掌造りの家々とが成す景観がすばらしく、世界遺産に指定されています。風鈴の音が山に響くといったのが、風土の特徴をよく捉えています。「響くよ」の「よ」に景色への感動がぎゅっとつまっていますね。

中学生の部

梅雨晴れの太陽のぼる東大寺

片山　聖悟
広幡中学校・3年

〔講評〕
大仏様が有名な、奈良の東大寺。この句は、梅雨晴れの太陽とともに詠んだことで、堂々とした大仏殿がよく表現できています。大仏や鹿など、だれもが目をひかれるところをあえて詠まず、大空に着目したのが手柄でした。

入　選　作　品

小学生の部

け上がりのつかむ手のひら汗とまめ	藤枝中央小学校	山　下　碧
シャボン玉短い旅に出かけてく	西益津小学校	丹羽　健心
夏祭りスーパーボールテンコ盛り	青島小学校	齋藤　真結子
花火ドン母のおむすび落としそう	葉梨小学校	江坂　奏汰
なつやすみないふをつかいひおこしだ	高洲小学校	河原﨑　一耀
ぶどうの木電車で見えた夏休み	高洲小学校	青島　琴香
日に焼けて手の色いっしょカナヘビと	大洲小学校	磯部　真宏
夏休みおてらでしゅう字べつせかい	藤岡小学校	平松　杏悠
赤ちゃんとはじめていっしょに見る花火	青島北小学校	海野　みのり
むしかごにねむるカマキリゆめであう	青島北小学校	村松　奈都

入　選　作　品

中学生の部

勉強中蚊取り線香香るなか　青島中学校　河井　紗帆

ドリブルで風を切る音夏休み　葉梨中学校　久保田　翼

夏休み川遊びへとつづく道　広幡中学校　大畑　弘貴

朝顔や雨を眺める部屋の中　広幡中学校　堀池　理翔

梅雨の時期シカの集い場茶に染まる　広幡中学校　海老名　朔

法隆寺眺めるみなに青葉風　広幡中学校　八木　璃音

夏空にルートが浮かぶ中三の夏　岡部中学校　髙橋　慧

富士登山人生初の雲の上　岡部中学校　鈴木　康介

黒バナナばぁばの魔法ですてきなケーキ　藤枝明誠中学校　青島　明璃

先客がいるけど入るこたつの中　藤枝明誠中学校　村上　漣

歴代化石賞受賞作品

大会回	年度	部門	作品	氏名	学校名等
第1回	平成15	小学生	赤トンボ見に来てくれた運動会	森田彩加	埼玉県岡部小4年
		中学生	青い海白い砂浜夏が来た	松下和弘	大洲中2年
		一般	みどりの日村に自慢の榧大樹	新川晴美	静岡市
第2回	平成16	小学生	秋の空羊がさんぽしているよ	強瀬紗希	埼玉県岡部小5年
		中学生	大きな手小さな手をひく夏祭り	村越亮太	岡部中2年
		一般	身奇麗を常のこころに秋立てり	石井みよ子	焼津市
第3回	平成17	小学生	水まいてできたにじ橋一人じめ	柴田美優	藤枝小6年
		中学生	さわやかにひざっこぞうをすぎる風	岩瀬卓也	青島北中2年
		一般	はるばると来て望郷の碑に涼む	影島智子	富士川町
第4回	平成18	小学生	虫おくりあつい火のこがぼくにとぶ	朝比奈大輝	朝比奈第一小2年
		中学生	ひまわりと生きていきたいまっすぐに	山内晴香	藤枝中3年
		一般	語り合ふことも供養や秋彼岸	横山茂子	三重県四日市市
第5回	平成19	小学生	あまいももさわってびっくり毛があるぞ	池田直樹	焼津西小3年
		中学生	まっすぐな線路の先に夏の雲	和泉原あかり	葉梨中3年
		一般	大竜勢月を掠めて上がりけり	小野多生	焼津市

歴代化石賞受賞作品

大会回	年度	部門	作品	氏名	学校名等
第6回	平成20	小学生	エアコンがなくてもすずし祖母の家	溝口真加	大井川西小
		中学生	勉強はちょっと休憩星月夜	遠藤菜摘	西益津中
		一般	木苺を母が食べれば子も倣ふ	笠原沢江	牧之原市
第7回	平成21	小学生	かぶとむし木からおちてもまたのぼる	前田ひなた	西益津小2年
		中学生	雲海を泳ぎきつたり夢の中	小花海月	西益津中3年
		一般	洗い晒し身に爽やかや鍬担ぐ	天野公江	富士市
第8回	平成23	小学校低学年	富士登山夜空がきれいまた来るよ	小林悠斗	岡部小3年
		小学校高学年	グランドにあせがちってるあとがある	谷口泰亮	大洲小5年
		中学生	電線に音符のような稲すずめ	鈴木奈々恵	焼津中3年
		一般	浴衣着て川の夕暮れ見てをりぬ	田崎とし子	沼津市
第9回	平成24	小学校低学年	太ようの中でかがやくぎんやんま	下田理音	青島東小3年
		小学校高学年	炎天下みんなでとった優勝旗	横山　翔	青島北小5年
		中学生	法隆寺緑の中に溶けにけり	実石理子	和田中3年
		一般	茶の銘は「天下一」なり風薫る	磯部和子	藤枝市泉町
第10回	平成25	小学校低学年	たべたいなふじさんみたいなかきごおり	松浦鉄弥	藤枝小3年
		小学校高学年	夏の夜ねころんで見た流星群	永田　藍	青島小5年
		中学生	ふりかえる阿弥陀も見入る蓮の花	秋山いぶ樹	焼津中3年
		一般	芋の露馴染みばかりの診療所	城所有子	藤枝市音羽町

歴代化石賞受賞作品

大会回	年度	部門	作品	氏名	学校名等
第11回	平成26	小学校低学年	すいかわりぼくがきめるぞどまんなか	板橋巧実	高洲小3年
		小学校高学年	妹の笑顔はまるでひまわりだ	藤本　愛	高洲南小4年
		中学生	若鮎やうろこ光らせ瀬を登る	山下美徳	藤枝明誠中2年
		一般	心眼で詠みし句胸に一夜酒	高橋和子	静岡市葵区
第12回	平成27	小学校低学年	夏空にイルカのジャンプ金メダル	服部芽依	高洲小3年
		小学校高学年	夏休みたいくつそうなランドセル	永井茉桜	小川小4年
		中学生	豊の秋祖父の笑顔は花のよう	濱田　歩	東京都町田第一中2年
		一般	茶を摘みつ子の宿題の九九を聞く	菅原末野	榛原郡吉田町
第13回	平成28	小学校低学年	夏休み最後の一日短いな	櫻井　秀	青島小3年
		小学校高学年	いそがしい母にあげたい夏休み	漆畑美心	小川小5年
		中学生	タンポポは未知の世界に飛んでゆく	三ヶ尻　新	広幡中1年
		一般	堪ふること今は淋しさ千菜汁	中谷貞子	北海道恵庭市
第14回	平成30	小学生	太陽の色ももらったマクワウリ	市川真綾	高洲小6年
		中学生	お日さまが会話している向日葵と	高野颯太	岡部中1年
		一般	雁渡るサイクリストは一列に	内野義悠	埼玉県所沢市
第15回	令和元	小学生	あさがおにおみずあげるとにじがでた	鈴木彩世	藤枝小1年
		中学生	初富士に負けじと波上げ駿河湾	笹野陽介	藤枝中2年
		一般	端居して妻と余生のこと少し	大石容一	藤枝市築地

歴代化石賞受賞作品

大会回	年度	部門	作品	氏名	学校名等
第16回	令和2	小学生	笠地蔵ひとみの中に舞う花火	杉山大喜	青島小4年
		中学生	セミたちに負けるなわたしのベートーベン	萩原　遙	西益津中2年
		一般	見えぬ眼に見ゆるものあり新茶汲む	橋本世紀男	東京都江東区
第17回	令和3	小学生	元気だよ声だけで会う夏休み	田端優菜	藤枝中央小4年
		中学生	川遊び岩から飛びこみ初挑戦	金原聡佑	青島中1年
		一般	田を植えて高根の富士を拝しけり	大石容一	藤枝市築地
第18回	令和4	小学生	おにやんまかわのまわりをぱとろーる	山下蒼馬	藤枝中央小1年
		一般	読初の「端坐」に父の朱線かな	古賀勇理央	愛知県尾張旭市
第19回	令和5	小学生	海の家風鈴たちのオーケストラ	佐々木海琉	青島北小学校6年
		中学生	せみしぐれ魂燃える部活動	疋野ももこ	青島中学校2年
		一般	共白髪となりて花野の風をきく	椋本信枝	藤枝市水上
第20回	令和6	小学生	夏祭り屋台のトンネル光ってる	伊達千温	西益津小学校6年
		中学生	氷柱から滴る水の澄んだ音	増田　愛子	藤枝中学校1年
		一般	手の先に夜明けてゐる盆踊	後藤むつ子	伊豆市

心眼 魂の俳人 村越化石

除夜の湯に肌触れあへり生くるべし

昭和25年作

新年への希望。ハンセン病の特効薬プロミンの開発により、療友とともに奇跡的な薬効に浴して一年。生命感を初めて見いだし、決意を詠んだ句。

闘うて鷹のゑぐりし深雪なり

昭和43年作

深雪に残った傷跡から、ひろがった鷹へのイメージ。俳句作りは気合い。気合いが奥にあるものを引き出す。この句は共鳴者が多く、私の代表作となった。

生きねばや鳥とて雪を払ひ立つ

昭和46年作

失明から立ち上がるも、私の日常はまだまだおぼつかなかった。

天が下雨垂れ石の涼しけれ

昭和51年作

林火先生に、この句は無欲の境地だといわれた。ぽっとんぽっとんという雨垂れの音、青苔のついた形のよい石を頭の中に浮かべた。

※掲載句の注釈は、村越化石句碑建立記念集『大龍勢』の自註句を参考にしました。

村越化石略年譜

大正11年	12月17日、志太郡朝比奈村（現・藤枝市岡部町）で生まれる
昭和13年	16歳でハンセン病発症、治療のため離郷。
16年	奈美と結婚、国立療養所栗生楽泉園に入園。
18年	本田一杉の指導を受ける。園の「栗の花句会」（後に高原俳句会）で、俳句精神を学ぶ。
23年	プロミンによるハンセン病の治療が日本で始まる。
24年	このころ化石さんもプロミンを注射。大野林火主宰の『濱』に境遇を隠したまま初投句。
25年	林火に境遇を打ち明けて、高原俳句会の指導を依頼する。
30年	片目の視力を失う。
45年	残る片目の視力も失う。
58年	第17回蛇笏賞 受賞。
平成3年	紫綬褒章受章。
14年	村越化石句碑除幕式。60年ぶりに帰郷。
20年	第8回山本健吉賞受賞。
26年	3月8日 栗生楽泉園で逝去 91歳

〔投句数の推移〕

大会回	年度	投句数			
		小学生	中学生	一般	合計
第1回	平成15	1,417	704	671	2,792
第2回	平成16	673	802	553	2,028
第3回	平成17	932	858	360	2,150
第4回	平成18	851	1,041	426	2,318
第5回	平成19	1,105	891	434	2,430
第6回	平成20	1,180	1,199	380	2,759
第7回	平成21	1,913	964	402	3,279
第8回	平成23	1,118	505	442	2,065
第9回	平成24	966	598	418	1,982
第10回	平成25	1,048	781	453	2,282
第11回	平成26	1,155	768	506	2,429
第12回	平成27	1,154	744	418	2,316
第13回	平成28	1,339	787	418	2,544
第14回	平成30	726	638	354	1,718
第15回	令和1	884	1,542	308	2,734
第16回	令和2	1,005	749	308	2,062
第17回	令和3	1,361	1,405	212	2,978
第18回	令和4	1,433	1,597	404	3,434
第19回	令和5	1,733	1,785	415	3,933
第20回	令和6	1,446	1,868	374	3,688
第21回	**令和7**	**1,458**	**2,058**	**ー**	**3,516**

〔石刻句〕

望郷の 目覚む 八十八夜かな

平成七年作

望郷の句は私に多い。故郷を離れてすでに久しく、見えない眼の奥にいつも故郷がある。夏も近づく八十八夜は新茶の初摘みの頃、村中が茶の香りにつつまれるよき季節。

生気溢るる八十八夜は望郷とともに私の好きな言葉である。

村越化石

【俳句大会の経緯】

平成十五年（第一回）　「村越化石顕彰玉露の里俳句大会」開催

平成二十一年（第七回）　「藤枝市村越化石顕彰俳句大会」に名称変更

平成二十三年（第八回）　「藤枝市村越化石俳句大会」に名称変更
実行委員会による運営体制へ移行

平成三十年（第十四回）　選者に有馬朗人氏と関森勝夫氏を迎え、新たな運営体制で再開、小学生・中学生の部は市内在住・通学者を対象。

令和三年（第十七回）　選者に大串章氏を迎える。

令和七年（第二十一回）　選者に高柳克弘氏を迎える。

第21回"魂の俳人"藤枝市村越化石俳句大会

入賞作品集

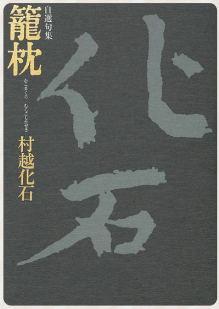
令和七年十一月二十九日　発行

編集・発行　藤枝市 街道・文化課
藤枝市岡出山一丁目十一番一号
電　話 〇五四-六四三-三〇三六

印　　刷　中央印刷株式会社

村越化石氏の句集

〔第九句集〕平成22年



〔卒寿記念自選句集〕平成25年

獨眼
〔処女句集〕昭和37年

〔第八句集〕平成19年

山國抄
〔第二句集〕昭和49年

〔第七句集〕平成15年

端坐
〔第三句集〕昭和57年

〔第六句集〕平成9年

石と杖
〔第五句集〕平成4年

筒鳥
〔第四句集〕昭和63年